

# 1. 評価結果概要表

平成 21 年 2 月 26 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170503817		
法人名	有限会社 ウェル・ビーイング		
事業所名	グループホーム とらいあんぐる太陽		
所在地	〒003-0825 札幌市白石区菊水元町5条2丁目2-18 (電話) 011-872-7335		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年2月26日

## 【情報提供票より】 (20年12月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 2 月 21 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人,	常勤換算8.75人

### (2) 建物概要

建物構造	SRC 造り	
	9階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円		
その他の経費(月額)	光熱水費 20,000円	冬季暖房費(11月～3月)	11,000円
敷金	(有)(家賃2ヶ月分) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要 (1月28日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	3名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 76.6歳	最低 65歳	最高 89歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青空たけうち内科クリニック・北海道脳神経外科記念病院 札幌センチュリー病院・札幌デンタルクリニック
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

9階建てマンションの1階部分を改装して事業所を開設し、3年が経過している。南側に面した居室や居間、台所は日射しが暖かで明るい。共用スペースは使いやすく家庭的な雰囲気となっている。管理者と職員は事業所理念の実現を目指し、全職員が利用者に対して同じ介護が提供できるよう、介護計画の充実に取り組んでいる。職員は、事業所での家庭的な生活の中で、利用者の思いを大切に自立を支援しながら、明るく伸び伸びとした暮らしを支えている。管理者は、熱意を持って事業所運営に取り組んでおり、職員と利用者の馴染みの関係も築かれてきている事業所である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は、①研修への取り組み②日常的な外出支援は改善されている。③職員の同業者との交流④災害時の地域との協力体制を築く取り組みは現在検討中であり、今後に期待したい。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の目的や意義を職員に説明し、職員は各自で評価項目の点検に取り組み自己評価表を作成している。職員各自の自己評価表は管理者が纏め上げ、ユニット会議で利用者のサービス向上に活かすよう改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は18年11月から定期開催しており、事業所の状況や活動内容を報告し、虐待や権利擁護、認知症などのテーマで話し合い意見交換を行なっている。メンバーに町内会副会長、福祉部長、民生委員、包括支援センター職員、利用者で構成されているが、家族の参加が得られていないので、参加への工夫や働きかけを行い、家族への認知症や事業所運営の理解を得て、家族意見を伺えるよう期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、内部及び第三者の苦情相談窓口を設けている。家族来訪時に意見や要望を伺う等の取り組みをしているが、家族が気兼ねなく意見を表出できているかの確認が行われていない。利用者それぞれの家族に対して、丁寧な報告や説明をして、意見交換を重ねながら信頼関係を築き、家族が意見や要望を気軽に伝えられる取り組みを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、花壇の苗植えや運動会などの町内会行事に参加している。事業所行事の敬老会やクリスマス会に地域ボランティアの方が手品や歌を披露したり、七夕には近隣の小学生との交流を深めている。幼稚園児、保育園児とは、散歩などで日常的に交流している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の基本理念「あなたの暮らしを大切にします」とケア理念「その人らしい安心した生活を地域と共にいつまでも提供します」を管理者や職員で話し合い作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念はユニット会議やカンファレンスで話し合いや確認を行い、全職員が理念の実践に向けて統一した介護が出来るように取り組んでいる。常に理念を意識できるように、玄関ホールや廊下に理念を掲げている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、花壇苗植えや運動会等の町内会行事に参加している。事業所行事の敬老会やクリスマス会に地域ボランティアの方が手品や歌を披露したり、七夕には近隣の小学生との交流を深め、幼稚園児、保育園児とも、散歩などで日常的に交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の目的や意義を職員に説明し、職員は各自で評価項目の点検に取り組み自己評価表を作成している。それらを事業所の評価として管理者が纏め上げ、ユニット会議で利用者へのサービスの向上に活かすよう改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は18年11月から定期開催しており、事業所の状況や活動内容を報告し、虐待や権利擁護、認知症などのテーマで話し合い意見交換を行っている。昨年は利用者の退去により構成メンバーだった家族の参加が得られず、家族意見が得られていない。	○	メンバーは町内会副会長、福祉部長、民生委員、包括支援センター職員、利用者で構成されている。今後は家族参加への工夫や働きかけを行い、家族の意見も頂きながら、認知症や事業所への理解を得て、活発な会議運営に取り組む事を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で開催の研修会や会議に積極的に参加して意見交換を行なっている。市の担当者とは電話やメールで入居情報や事業所運営などについて相談をし連携を取りながら、運営に活かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時や電話の際に利用者の暮らしぶりや健康状態、介護計画などの報告をしている。また、広報担当職員がホーム通信を毎月発行し、利用者への個別コメントと事業所の雰囲気や暮らしぶりを写真に収めて発信し、金銭出納明細と共に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、内部及び第三者の苦情相談窓口を設けている。家族来訪時には意見や要望を伺うなど取り組んでいるが、利用者それぞれの家族が、気兼ねなく意見を表出できているかの確認が積極的に行われていない。	○	今後更に、利用者それぞれの家族に対して、丁寧な報告や説明を行ない、意見交換を重ねながら関係性を深め、家族が意見や要望を気軽に伝えられるような取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員との面談の機会を持ち、管理者も職員の意見や要望を聴くように心がけ、昨年より職員の定着が進み、利用者との馴染みの関係が築かれてきている。やむを得ず代わる場合は、利用者へ説明を行い、引継ぎ期間を充分に取るよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員それぞれが、段階に応じた内容の研修を年に1~2回受講し、研修後ユニット会議で報告し、職員間で話し合い、意見交換を行ない共有に努めている。内部研修は毎月のユニット会議で、管理者がテーマを決め資料を持ち寄り勉強会を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区のグループホーム連絡会に出席し、同業者との情報交換や交流を重ねている。職員間での交流は、管理者のネットワークで他事業所の見学を1回実施したのみで、交流までは至っていない。	○	管理者のみならず、職員間レベルでも同業者との交流を持ち、見学や相互研修や学習会などを重ねて、サービスの質の向上に取組み、気付きや研鑽に繋げることを期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族に事業所見学に来て頂き、内容説明をして、他利用者や職員とお茶を共にしながら、雰囲気を感じてもらおうよう配慮している。希望があれば一日体験や宿泊体験も可能な体制である。入院等で事業所見学に来れない場合は、管理者とケアマネージャーが面会に伺い、馴染みの関係を築くよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は事業所での「家庭的な生活」を目指しており、利用者の出来ること出来ないことを見極め自立支援をしながら、利用者や職員が互いに協働生活を送り支え合う関係を築くよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活動作の「出来ること出来ないこと」、見当識の「わかることわからないこと」を、状況を踏まえて具体的に把握しアセスメント用紙に記載し、どのように暮らしたいかを生活場面に照らし合わせて、利用者本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用した利用者の情報を基に、本人や家族の意向を大切にしながらケアカンファレンスを行ない、職員間で意見交換を重ねて、ケアマネージャーが利用者個々の介護計画を立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン実施表を作成し、介護計画の項目毎に具体策が実施できたかどうかを、毎日職員がチェックし、出来なかった場合の詳細を記載している。毎月のユニット会議で全利用者の状況を職員間で共有し介護計画と利用者の状態に相違が無いか確認をして、3ヶ月ごとにモニタリングを丁寧に実施し、計画に反映している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、24時間対応の健康管理を行なっている。利用者や家族の希望に応じて、通院や買い物などの支援も柔軟に行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、事業所の協力医による往診や、訪問看護ステーションの看護師による訪問で、利用者の健康管理に努めている。利用者や家族の希望により、入居前のかかりつけ医や他科受診時に家族が付き添えない場合は、職員が通院介助の支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関する指針書を作成し、入居時に事業所が対応し得る最大限の支援を、利用者や家族に説明を行ない同意の上で入居に至っている。また、重度化した場合は、関係者で、その都度話し合いを重ね、方針を共有し支援に繋げている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、利用者のプライバシーや誇りが守られているか、特に、介護時はドアを閉める、排泄誘導時の声かけはさりげない対応をする、会話時敬意のある言葉かけや対応を心がける、個人情報の取り扱い等を、日常的に点検し徹底されるよう指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の希望を優先することを大切に支援し、管理者は利用者に対して「待つ」の言葉は使わないよう職員に指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、調理、盛り付け、後片付け等の一連の作業を利用者自らお手伝いしたり、利用者の能力を活かして職員がお願いしたりして支援している。献立は利用者の希望に沿って、柔軟に変更している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を目どとしているが、希望により毎日の入浴も可能である。午前から夕方5時頃の時間で利用者の状況に合わせて、見守りや介助などの入浴支援を行ない、入浴剤の使用や、シャワー浴などと工夫しながら楽しんで清潔保持ができるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野を把握して、毎食ごとのメニュー書き、チラシ折り、包丁研ぎ、日曜大工、鉢植えのお世話などの役割を持ち、張り合いのある生活を支援している。また、花札、マージャン、トランプ、ゲームなどの楽しみごとの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を尊重しながら、毎日の公園散歩、近隣のスーパーやジャスコへの買い物、焼肉やお寿司などの外食、屋上での焼肉パーティーなどの気分転換を兼ねた外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ防犯の為玄関の施錠をしている。日中は玄関にセンサーを設置し、利用者の外出の気配にさりげなく同行し、安全と自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署や防火管理者指導の下で、年2回、日中と夜間を想定して利用者が全員玄関外まで避難して実施しているが、災害時における地域との協力体制を築く取り組みには至っていない。	○	運営推進会議で、災害時における地域住民への呼びかけ、協力体制を築くための話し合いを重ね、連携が図れる取り組みを期待する。また、非常用備品の準備、救命救急講習の受講の取り組みも期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎食ごとの摂取量と一日の水分摂取量をチェックし、必要量が摂取できるよう工夫している。食材と献立は業者に委託しているが、栄養バランスのとれた食事を提供している。体重の増減チェックは、往診医による毎月の健康チェックで行なわれている。		
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下は広くゆったりしている。居間は窓が大きく明るく、食卓テーブルや座卓テーブル、ソファを置き、床上和室もあり、寛ぎやすいスペースが確保されている。また、音楽を絶やさず流し癒されている。台所は利用者にも使いやすい対面式キッチンである。トイレも広く、男性用便器も設置してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれ使い慣れたタンスやテーブル、ソファを置き、仏壇やTV、趣味の鉢植え等、居心地よく過ごせる居室になっている。		

※  は、重点項目。